第２　合併の必要性・メリット等

１　日常生活圏の一体化への対応

広島市は、昭和 45 年（1970 年）以来、広域合併を推進してきたが、当時、湯来町と広島市との日常生活面でのつながりは、合併対象の 19 町村に比べて相当弱く、広島市は湯来町を合併対象としなかった。

その後、五日市筒賀線の整備、住宅団地の開発及び就業構造の変化等により、現在では、湯来町と広島市との日常生活面でのつながりの状況は、合併対象の 1 市 4 町（廿日市市、海田町、府中町、熊野町、坂町）と同程度あるいはそれ以上の水準に達している。

地方自治体の基本的な役割は、行政活動を通じ住民の日常生活に必要なサービスを提供し、その福祉を向上するとともに、地域社会の活性化を図ることであり、日常生活圏が既に一体化している広島市と湯来町は、合併により、一つの行政区域・行政体として、地域の課題を総合的に解決していく必要があると考えられる。

■広島市周辺市町の広島市への依存状況

（単位：%）

区　分	通　勤	通　学	通　院	入　院	買物(最寄品)	買物(買回品)
湯来町	(4.2) 34.8	(11.2) 30.7	57.9	46.7	56.2	80.4
海田町	(25.3) 42.2	(40.2) 42.0	29.2	54.7	7.3	30.6
府中町	(38.6) 52.5	(71.0) 43.6	29.2	66.6	9.5	48.8
熊野町	(10.9) 26.7	(24.1) 37.0	21.4	40.8	4.0	29.3
坂町	(34.0) 43.1	(52.9) 56.8	32.9	51.0	7.7	30.6
廿日市市	(23.0) 44.6	(38.4) 42.0	22.9	31.7	4.3	30.4
宮島町	(11.2) 9.4	(36.9) 32.4	18.5	32.6	8.4	61.2
呉市	(4.8) 8.6	(8.9) 19.1	2.4	6.3	1.1	8.4
東広島市	(10.8) 11.2	(23.7) 13.0	8.3	14.2	4.7	15.2
江田島町	(9.0) 10.2	(26.5) 41.5	12.4	22.7	2.0	22.7
能美町	(13.7) 13.6	(51.0) 63.8	18.5	50.0	3.9	25.8
沖美町	(20.2) 18.6	(41.3) 67.3	25.0	68.4	8.4	31.5
大柿町	(5.3) 6.4	(7.3) 24.1	8.8	17.6	0.4	16.6
加計町	(6.1) 12.2	(9.3) 48.3	17.5	32.1	17.0	55.2
千代田町	(1.7) 8.0	(1.0) 17.9	14.9	31.5	1.4	33.3
豊平町	(1.4) 14.1	(1.5) 40.5	33.2	31.6	31.4	42.9
吉田町	(4.0) 6.7	(6.3) 22.5	7.7	19.1	2.0	25.1
八千代町	(8.2) 21.9	(13.8) 50.9	39.1	27.9	20.6	44.8
向原町	(14.6) 16.9	(16.7) 37.9	16.6	27.2	6.9	34.9

資料：通勤・通学＝平成 12 年(2000 年)国勢調査。(　)内は、昭和 40 年(1965 年)国勢調査
　　通院・入院＝広島県患者調査(平成 8 年(1996 年)11 月)
　　買　　物＝広島県商圏調査(平成 12 年(2000 年))
注１：最寄品＝一般の消費者が少しずつ多頻度に最寄の店で購入する消費財(日用品、食料品)
　　買回品＝消費者が購買に際して色、柄、スタイル、デザインなどを比較しながら複数の同種商品の中から選択して買う傾向のある商品(衣料品、耐久消費財、文化品)
注２：依存率の**ゴシック数字**は、広島市が依存先のうち１位であるもの

■広島市周辺市町村の広島市への通勤依存率の推移

(単位:%)

区分		昭和40年(1965年)							平成12年(2000年)						
			第1位		第2位		第3位			第1位		第2位		第3位	
湯来町		4.2	広島市	4.2	五日市町	3.5	廿日市町	1.0	34.8	広島市	34.8	佐伯町	4.9	廿日市市	4.3
海田町		25.3	広島市	25.3	府中町	10.3	船越町	4.1	42.2	広島市	42.2	府中町	4.7	坂町	2.9
府中町		38.6	広島市	38.6	船越町	1.9	海田町	1.6	52.5	広島市	52.5	海田町	1.9	東広島市	1.4
熊野町		10.9	広島市	10.9	府中町	8.4	海田町	4.6	26.7	広島市	26.7	呉市	10.7	東広島市	4.7
坂町		34.0	広島市	34.0	府中町	11.1	海田町	5.1	43.1	広島市	43.1	呉市	6.6	海田町	4.8
廿日市市	廿日市市	23.0	広島市	23.0	五日市町	3.7	大野町	1.4	44.6	広島市	44.6	大野町	3.4	府中町	2.2
	旧吉和村	-	-	-	-	-	-	-	2.8	広島市	2.8	佐伯町	2.4	廿日市市	1.5
	旧佐伯町	4.0	廿日市町	7.3	広島市	4.0	五日市町	1.1	21.7	広島市	21.7	廿日市市	12.9	大野町	2.3
	大野町	15.1	広島市	15.1	大竹市	6.0	廿日市町	5.4	31.3	広島市	31.3	廿日市市	11.0	大竹市	5.4
	計	16.3							38.5						
宮島町		11.2	広島市	11.2	廿日市町	4.8	大野町	2.6	9.4	広島市	9.4	廿日市市	4.4	大野町	3.3
大竹市		4.4	和木町	8.2	岩国市	5.5	広島市	4.4	11.8	広島市	11.8	岩国市	9.3	大野町	5.6
江田島市	江田島町	9.0	呉市	12.1	広島市	9.0	府中町	1.7	10.2	広島市	10.2	呉市	7.3	大柿町	4.3
	能美町	13.7	広島市	13.7	呉市	1.4	大柿町	1.1	13.6	広島市	13.6	大柿町	8.2	江田島町	5.6
	沖美町	20.2	広島市	20.2	能美町	0.9	大柿町	0.9	18.6	広島市	18.6	能美町	6.0	大柿町	5.0
	大柿町	5.3	呉市	13.2	広島市	5.3	江田島町	2.1	6.4	呉市	16.1	江田島町	15.3	広島市	6.4
	計	10.3							10.8						
安芸太田町	加計町	6.1	広島市	6.1	可部町	2.1	戸河内町	1.2	12.2	広島市	12.2	戸河内町	4.2	湯来町	2.7
	筒賀村	2.2	加計町	4.4	広島市	2.2	戸河内町	1.5	8.6	加計町	16.5	戸河内町	9.0	広島市	8.6
	戸河内町	0.6	加計町	4.5	筒賀村	1.6	広島市	0.6	6.1	加計町	11.4	広島市	6.1	筒賀村	2.6
	計	3.6							9.5						
呉市	呉市	4.8	広島市	4.8	府中町	2.7	海田町	0.6	8.6	広島市	8.6	府中町	1.4	東広島市	1.2
	下蒲刈町	1.4	呉市	20.0	府中町	3.1	広島市	1.4	1.0	呉市	23.5	蒲刈町	2.8	川尻町	1.6
	川尻町	2.6	呉市	24.6	府中町	3.2	広島市	2.6	3.9	呉市	36.5	広島市	3.9	安浦町	3.8
	安浦町	1.7	呉市	14.8	広島市	1.7	川尻町	1.6	3.6	呉市	28.1	黒瀬町	4.5	東広島市	3.9
	音戸町	1.4	呉市	33.7	府中町	1.6	広島市	1.4	3.3	呉市	39.4	広島市	3.3	倉橋町	3.1
	倉橋町	0.3	呉市	4.4	音戸町	2.2	広島市	0.3	0.9	呉市	13.1	音戸町	6.3	大柿町	1.9
	豊浜町	-	豊町	0.3	-	-	-	-	1.0	豊町	5.1	松山市	2.3	平戸市	1.4
	豊町	0.0	大竹市	0.6	神戸市	0.3	木江町	0.2	0.0	豊浜町	2.4	木江町	1.6	竹原市	0.3
	蒲刈町	0.5	呉市	10.9	川尻町	0.8	下蒲刈町	0.7	1.1	呉市	15.3	下蒲刈町	6.9	川尻町	2.6
	計	3.8							7.3						
東広島市	東広島市	10.8	広島市	10.8	府中町	3.0	海田町	1.8	11.2	広島市	11.2	府中町	4.8	黒瀬町	1.5
	黒瀬町	2.0	呉市	16.2	西条町	3.0	広島市	2.0	6.7	東広島市	16.5	広島市	6.7	熊野町	1.1
	福富町	1.2	西条町	2.7	豊栄町	2.1	八本松町	1.5	4.4	東広島市	32.2	広島市	4.4	豊栄町	4.1
	豊栄町	0.6	西条町	2.1	広島市	0.6	河内町	0.5	2.4	東広島市	17.3	大和町	2.8	広島市	2.4
	河内町	5.9	三原市	7.3	広島市	5.9	西条町	2.6	8.2	東広島市	22.0	広島市	8.2	本郷町	3.7
	安芸津町	0.8	呉市	6.1	竹原市	4.0	三原市	2.0	2.3	竹原市	11.7	呉市	6.9	東広島市	5.0
	計	6.7							9.4						
安芸高田市	吉田町	4.0	広島市	4.0	可部町	1.0	三次市	0.7	6.7	広島市	6.7	千代田町	4.0	甲田町	3.8
	八千代町	8.2	広島市	8.2	可部町	5.2	吉田町	3.1	21.9	広島市	21.9	吉田町	9.8	千代田町	6.6
	美土里町	0.6	吉田町	1.6	広島市	0.6	千代田町	0.3	3.6	吉田町	11.8	千代田町	5.5	高宮町	4.3
	高宮町	1.1	三次市	1.9	広島市	1.1	作木村	0.8	2.7	三次市	9.1	吉田町	5.1	甲田町	3.5
	甲田町	9.6	広島市	9.6	三次市	2.6	吉田町	2.1	7.8	吉田町	12.5	三次市	9.0	広島市	7.8
	向原町	14.6	広島市	14.6	府中町	2.9	白木町	2.0	16.9	広島市	16.9	吉田町	7.4	甲田町	4.3
	計	6.1							9.2						
北広島町	芸北町	-	大朝町	0.0	-	-	-	-	2.4	千代田町	3.6	広島市	2.4	豊平町	2.2
	大朝町	0.7	千代田町	0.9	広島市	0.7	-	-	5.0	千代田町	15.1	広島市	5.0	豊平町	1.5
	豊平町	1.4	広島市	1.4	可部町	1.1	加計町	0.8	14.1	広島市	14.1	千代田町	6.5	加計町	1.3
	千代田町	1.7	広島市	1.7	可部町	1.0	大朝町	0.5	8.0	広島市	8.0	大朝町	2.8	八千代町	1.6
	計	1.1							8.0						

注：現時点で想定される合併後の市町村単位で整理している。

■湯来町と広島市の日常生活面でのつながり

1　通勤・通学の状況

【湯来町】　　**(単位：人､%)**

区分	就業者･通学者総数	湯来町内	湯来町外	第1位	第2位	第3位
通勤	3,870	1,959 (50.6)	1,911 (49.4)	**広島市　1,345** **(34.8) [70.4]**	**旧佐伯町**　189 (4.9) [9.9]	**廿日市市**　167 (4.3) [8.7]
通学	499	236 (47.3)	263 (52.7)	**広島市　153** **(30.7) [58.2]**	**廿日市市**　83 (16.6) [31.6]	**大野町**　14 (2.8) [5.3]

【広島市】

区分	就業者･通学者総数	湯来町
通勤	565,487	570 (0.1)
通学	71,431	86 (0.1)

資料：平成12年(2000年)国勢調査
注　：( )内は全総数に占める割合､[ ]内は町外総数に占める割合

2　通院・入院の状況

【湯来町】　　**(単位：人､%)**

区分	患者総数	湯来町内	湯来町外	第1位	第2位	第3位
通院	492	129 (26.2)	363 (73.8)	**広島市　285** **(57.9) [78.5]**	**加計町**　38 (7.7) [10.5]	**廿日市市**　26 (5.3) [7.2]
入院	120	24 (20.0)	96 (80.0)	**広島市　56** **(46.7) [58.3]**	**廿日市市**　24 (20.0) [25.0]	**加計町**　11 (9.2) [11.5]

【広島市】湯来町への通院・入院患者数のデータなし

資料：広島県患者調査(平成8年(1996年)11月)
注　：( )内は全総数に占める割合､[ ]内は町外総数に占める割合

3　買物動向

【湯来町】　　**(単位：%)**

区　分	湯来町内	湯来町外	広島市	佐伯区	中心部	その他	廿日市市	その他
最寄品	35.3	64.7	**56.2 [86.9]**	53.7	1.8	0.7	3.2 [4.9]	5.4 [8.3]
買回品	5.3	94.7	**80.4 [84.9]**	58.8	12.7	8.9	5.8 [6.1]	8.4 [8.9]

【広島市】湯来町への買物動向のデータなし

資料：広島県商圏調査(平成12年(2000年))
注１：最寄品＝一般の消費者が少しずつ多頻度に最寄の店で購入する消費財(日用品､食料品)
　　買回品＝消費者が購買に際して色､柄､スタイル､デザインなどを比較しながら複数の同種商品の中から選択して買う傾向のある商品(衣料品､耐久消費財､文化品)
注２：[ ]内は町外総数に占める割合

2　温泉や豊かな自然を生かした都市づくりの推進

広島市は、都市像「国際平和文化都市」の具現化のため、都市づくりの理念の一つに「文化都市の理念」を定め、恵まれた水と緑の自然環境を生かし、安全、快適で美しい都市景観を有する質の高い都市環境を創造していくとともに、市民が健やかでゆとりと生きがいを持って生き生きと暮らし、まちが賑わい人々が集う、豊かな文化と人間性をはぐくむ都市をめざしている。

一方、湯来町は、広島市の西部地域に隣接し、豊かな自然と田園、歴史ある温泉地を有しており、「自然と観光とベッドタウンの調和した田園都市」づくりを進めている。

広島市の「水と緑を生かした住みよい都市づくり」という基本理念と湯来町の都市づくりの理念は合致しており、両市町は、合併によって、湯来町の温泉や豊かな自然を生かした都市づくりを一体的に推進していくことができる。

(1)　温泉を活用した温泉医学療養や保養・健康づくり等や観光施策の振興

湯来町の湯来温泉と湯の山温泉の活用により、温泉医学療養や保養、健康づくり等の施策展開が可能である。

また、観光客はここ数年減少傾向にあるものの、道路交通網の整備等を行うことで、観光振興も図ることができると考えられる。

これは湯来町が単独で取り組むことは行財政的に困難であるが、これまで広島県が整備してきた国・県道を、広島市が合併により生じる財源や合併特例債等を活用して整備し、広島市の観光施策の中に取り込むことによる宣伝効果の向上等によって可能となり、広島市にとって新たな魅力ある地域が加わることになる。

(2)　豊かな自然を生かした憩いの場やレクリエーション・学習活動の場の確保等

湯来町は、自然に恵まれた魅力ある地域であり、散策やトレッキング、カヌー体験など住民の憩いの場やレクリエーション・学習活動の場が確保できるとともに、豊かな自然や田園と調和した居住地域としての活用を期待できる。

(3)　農林水産業の振興等

湯来町は、広島都市圏の近郊農業地域で、安全で新鮮な食料供給地としての農業、水産業施策や林業施策の展開が図れ、農園、牧場、釣り場など自然や人とのふれあいの場として活用できる。

(4)　水質保全や河川環境の確保

湯来町は、太田川（水内川（みのちがわ））と八幡川の源流域に当たり、水の恩恵を受ける広島市としても、広域的な観点から湯来町域の森林保全等に取り組むことは、広島市の水質保全や河川環境の確保につながる。

■湯来町の広島市における位置付けと役割

広島市は、都市像「国際平和文化都市」の具現化のため、都市づくりの理念の一つに「文化都市の理念」を定め、恵まれた水と緑の自然環境を生かし、安全、快適で美しい都市景観を有する質の高い都市環境を創造していくとともに、市民が健やかでゆとりと生きがいを持って生き生きと暮らし、まちが賑わい人々が集う、豊かな文化と人間性をはぐくむ都市をめざしている。

一方、湯来町は、広島市の西部地域に隣接し、豊かな自然と田園、歴史ある温泉地を有しており、その地域像を「清流と温泉と森が彩る「循環型田園タウン・ゆき」-自然と暮らしが共生する、定住ともてなしのまちづくり-」とし、同町の広域的な位置付け及び役割として、下記の 8 つを掲げている。

これらは、いずれも、「広島市基本構想」を達成するための施策の大綱である「第 4 次広島市基本計画」と整合しており、今後、広島市が、都市づくりの理念の一つである「文化都市の理念」に沿った都市づくりを進めていく上で、湯来町の魅力ある地域特性を大いに活用することができる。

広島市総合計画

●広島市基本構想(平成 10 年(1998 年)6 月策定)

◎都市像
「国際平和文化都市」
◎都市づくりの理念
「平和都市の理念」
「文化都市の理念」
「国際都市の理念」

●第 4 次広島市基本計画
(平成 11 年度(1999 年度)～平成 22 年度(2010 年度))

◎施策の構想	◎分野別計画の基本方針
1 水と緑を生かした住みよい都市づくり	(1) 環境と共生する都市の創造 ① 豊かな自然環境の保全と水や緑とふれあえる環境の整備 ・自然環境の保全 ・自然とふれあえる環境づくり ・水と緑のネットワークの形成 ② 環境にやさしい社会の実現 ③ 廃棄物の減量とリサイクル、適正処理の推進 (2) 安全で、快適な美しい都市の形成 ① 潤いのある整った市街地の形成 ・計画的な集落地の整備 ② 快適な住まいづくりの推進 ・地域特性を生かした魅力ある住生活の実現 ③ 都市内交通体系の整備 ・都市内道路の整備推進
2 生き生きと人が輝く都市づくり	(3) 豊かな人間性をはぐくみ、人が輝く社会の形成 ① 学校教育の充実と生涯学習の推進 ② スポーツ・レクリエーション活動の振興 ③ まちづくり活動や豊かな市民生活のための環境の整備
3 豊かさと活力を生みだす都市づくり	(4) 活力ある広島経済の創造 ① 地域の発展をリードする産業の創造と振興 ・観光の振興 ② 豊かな地域社会を支える産業の活性化 ・農林業の振興

湯来町まちづくりビジョン
(平成 17 年度(2005 年度)～平成 26 年度(2014 年度))

◎策定趣旨
市町村合併の流れに的確に対応し、合併を契機とした住みよいまちづくり・魅力づくりの視点に立ち、21 世紀の湯来町のまちづくりを方向づける。

◎湯来町の地域像(将来像)
清流と温泉と森が彩る「循環型田園タウン・ゆき」
－自然と暮らしが共生する、定住ともてなしのまちづくり－

◎湯来町の広域的な位置付けと役割

1 源流域の環境保全と豊かな森・水を通じた交流を生み出す地域 2 自然と共生する循環型社会を先導する地域
3 多自然居住地域としての定住と滞在の地域 4 広島(都心)・湯来・西中国山地をつなぐ新たな地域資源活用・交流軸の中央ゾーン
5 自然と田園文化を生かした多彩な体験学習・レクリエーション拠点を有する地域 6 温泉を生かした保養・健康・レクリエーション拠点を有する地域
7 21 世紀の広島の“もてなしの場(奥座敷)” 8 安全・安心な食を通じた健康と交流をはぐくむ地域

補完及び継承・発展

第 3 次湯来町長期総合計画
(平 成 8 年 度 (1996 年度)～平成 17 年度(2005 年度))

◎基本構想の目標
「健康で、豊かな、活力とゆとりのある町」

◎10 年後の都市像
「自然と観光とベッドタウンの調和した田園都市」

3　地方分権への対応と行財政基盤の強化

地方分権の推進に伴い、地方自治体は、自らの責任と判断で行政の施策・サービス内容を決定し、実施することが求められている。このことは、地方自治体が自らの考えで個性豊かなまちづくりを推進する良い機会とも言えるが、これを生かすには、行政体制を一層強化する必要がある。

また、国、地方ともに非常に厳しい財政状況にある中で、少子・高齢化、国際化、情報化、環境対策など複雑・高度化する行政課題や、福祉、保健、医療など多様化する住民ニーズへの的確な対応も求められている。

これらの情勢を踏まえ、今後とも、行政サービスの充実を図り、より快適で利便性に富んだ生活環境を提供していくため、湯来町においては、合併によって、行財政基盤を強化するとともに、政令指定都市という大きな枠組みの中で、これまで以上に効率的な行財政運営を行いながら、まちづくりを展開していく必要があると考えられる。

■広島市と湯来町が合併する場合の広島市財政への影響

広島市及び湯来町ともに、財政状況は非常に厳しいが、湯来町の財政状況を平成 14 年度（2002 年度）普通会計決算でみると、歳入のうち、町税等の自主財源は 28.7%で、48.2%を占める地方交付税は年々減少している。一方、歳出では、公債費が 21.5%を占め、普通建設事業費は 9.9%にまで落ち込んでいる。このような状況の中で、国において、今後、地方交付税の削減方針が示されていること等を考慮すると、全国的にも同様の状況にあるが、湯来町も単独で町制を維持していくことは困難な状況にある。

湯来町の財政規模は、平成 14 年度（2002 年度）普通会計決算（歳出）でみると、広島市の 0.68%、同年度末の普通会計地方債現在高は、広島市の 0.47%にすぎず、合併することによって広島市の財政に大きな負担にはならないと考えられ、さらに、総務・管理部門等の統合など財政の効率化を図ることができる。

また、合併する場合には、これまで広島県が実施してきた湯来町域における事務が、大都市特例により広島市に移管される。これにより生じる新たな財源及び財政負担や、広島市の行っている事務を湯来町域で実施する場合の財政負担などについて、引き続き、精査・検証する必要がある。

以上のような状況から、広島市と湯来町が合併する場合の広島市財政への影響については、具体的に協議する段階で詳細に算出する必要があるが、現時点での推計では、広島県から広島市に事務が移管されること等に伴う地方譲与税・交付金、地方交付税等の増により、将来的な湯来町の財源不足を補った上で、湯来町域及びこれに関連する広島市域の普通建設事業等を実施することが可能である。

さらに、合併後 10 年間は合併特例債を活用できることから、これにより普通建設事業等の実施における一般財源を軽減することができると考えられる。

4　合併協議に当たって懸念される事項

(1)　広島市にとって懸念される事項

湯来町は、人口約 8,000 人、面積 162.87㎢で、その面積は、約 9 割を森林が占めるものの、広島市の安佐北区を除いた 7 区の各面積を上回っている。

このため、合併により、行政区域面積が相当拡大し、市役所、区役所等から遠距離になることが想定され、住民ニーズのきめ細かい把握等に一層努める必要がある。

(2)　湯来町にとって懸念される事項

①　住民と役所の距離が、物理的にも精神的にも遠くなり、地域としての要望が届きにくくなるおそれがある。このため、住民ニーズのきめ細かい把握に努めるとともに、できる限り住民サービスの低下を来すことのないようにする必要がある。

②　現在、湯来町において行われている施策、事業について、合併により、サービスの水準が高くなるものや住民負担の軽減がある一方で、部分的にサービスの水準が低下するものや住民負担の増加が生じるものがあることが想定される。